



TITLE:

ポーラログラフに依る醗酵生成物の研究(第一報)

AUTHOR(S):

庄司, 謙次郎

CITATION:

庄司, 謙次郎. ポーラログラフに依る醗酵生成物の研究(第一報). 化学研究所學術報告 1929, 1

ISSUE DATE:

1929-11-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74478>

RIGHT:

計算上の一致に依り實證し得たるに反し、含硝酸基錯鹽の場合は更に水酸基が關與する爲か、複雑にして、ポーラログラフ法のみにては此間の關係の研究には不充分なり。

ポーラログラフに依る醱酵生成物の研究 (第一報)

庄 司 謙 次 郎

滴水銀極並びにポーラログラフに依る微量なる被還元性有機化合物の電解還元壓は既に多數の有機化合物に就て行はれたり。(京大農學部紀要第四號 (1927)) 依つて著者は、此等の結果を以て醱酵生成物中に含有せらるゝ微量有機化合物の微量分析に應用せんとして本研究に着手したり。

實驗は清酒、醬油、葡萄酒、ビールに就て行ひたるに、清酒、醬油及び葡萄酒の場合に五個、ビールに於て三個の被還元性物質ある事を確認し得たり。但ビールも濃縮せらるれば同じく五個の還元波を示す。此等五個の被還元性物質は、醱酵生理上又、香氣成分として重大なる位置を占む可きものと想像せらる。但殘溜殘液に出づる他の二物質は後報に譲る可し。

殘液及び原液に出づる二物質を除き、蒸溜液にては、四種の醱酵物共に三種の被還元性物質を認め芳香族アルデヒド、フルフロール、脂肪族アルデヒドなる事を知れり。其脂肪族アルデヒドは Acetaldehyd として

清 酒	0.0099%	醬 油	0.0376%
葡 萄 酒	0.0844%	ビ ー ル	0.0036%

なり。

特に醬油に於て第二波は特に著明なるは注意すべき事項なりとす。

又市販純アルコール中に於てもアルデヒド、フルフロールを検出し得たるに依り、アルコールの鑑定に應用し得る可能性あり。

要するに、從來の Aldehyd, Furfurol の定性及び定量は種々障害作用ありて困難なる場合あるもポーラログラフ法に於ては、供試品の調製頗る簡單にして而も定性、定量を同時に兼ね得る特性あり。

計算上の一致に依り實證し得たるに反し、含硝酸基錯鹽の場合は更に水酸基が關與する爲か、複雑にして、ポーラログラフ法のみにては此間の關係の研究には不充分なり。

ポーラログラフに依る醱酵生成物の研究 (第一報)

庄 司 謙 次 郎

滴水銀極並びにポーラログラフに依る微量なる被還元性有機化合物の電解還元壓は既に多數の有機化合物に就て行はれたり。(京大農學部紀要第四號 (1927)) 依つて著者は、此等の結果を以て醱酵生成物中に含有せらるゝ微量有機化合物の微量分析に應用せんとして本研究に着手したり。

實驗は清酒、醬油、葡萄酒、ビールに就て行ひたるに、清酒、醬油及び葡萄酒の場合に五個、ビールに於て三個の被還元性物質ある事を確認し得たり。但ビールも濃縮せらるれば同じく五個の還元波を示す。此等五個の被還元性物質は、醱酵生理上又、香氣成分として重大なる位置を占む可きものと想像せらる。但殘溜殘液に出づる他の二物質は後報に譲る可し。

殘液及び原液に出づる二物質を除き、蒸溜液にては、四種の醱酵物共に三種の被還元性物質を認め芳香族アルデヒド、フルフロール、脂肪族アルデヒドなる事を知れり。其脂肪族アルデヒドは Acetaldehyd として

清 酒	0.0099%	醬 油	0.0376%
葡 萄 酒	0.0844%	ビ ー ル	0.0036%

なり。

特に醬油に於て第二波は特に著明なるは注意すべき事項なりとす。

又市販純アルコール中に於てもアルデヒド、フルフロールを検出し得たるに依り、アルコールの鑑定に應用し得る可能性あり。

要するに、從來の Aldehyd, Furfurol の定性及び定量は種々障害作用ありて困難なる場合あるもポーラログラフ法に於ては、供試品の調製頗る簡單にして而も定性、定量を同時に兼ね得る特性あり。